

魅力だより

◆最上教育事務所「魅力ある学校づくり調査研究事業」通信第7号
◆令和2年9月28日（月）
◆最上教育事務所 指導課

「魅力ある学校づくり調査研究事業」に係る「各学校の実践紹介#3」

大蔵村立大蔵中学校の実践

【目標】 「イ みんなで何かをするのは楽しい」の項目について、「当てはまる」の割合を各学年90%以上にする。

【活動名】 **生徒主体**で作り上げる**運動会**

【ねらい】 「新型コロナウイルス感染症拡大防止」や「熱中症予防」の観点から、**生徒が競技を考えたり、生徒主体となって運動会練習を進めたり**することで「みんなで何かをするのは楽しい」と感じる生徒の割合を増やすこと。



競技説明のために、念入りに準備をしている様子

Check!

1 「新型コロナウイルス感染症拡大防止」や「熱中症予防」の観点から、生徒が競技を考える。

・教師の力を借りずに各生徒が「想像力」を働かせ、「コロナ禍だからできない」ではなく、「コロナ禍だからこそできる」ことを考え、新しい種目を考案する。

グループ協議の中で仲間に意見を聞いたこと等を競技に生かしていくことで、「仲間の意見を受容すること」や「傾聴する」姿勢が育った。

2 生徒主体の運動会練習の実施

・担当生徒に「競技説明」「生徒の動き」「言葉の選び方」「緻密な計画」を意識させ、どのようにすれば生徒の心に届くのかを考えさせた。

取組を通して、「自分はみんなの役に立っている」という「自己有用感」を得ることができたと同時に、生徒自身がやりきったという「満足感」を得ることができた。



生徒が競技の説明をしている様子



競技について、生徒が質問している様子

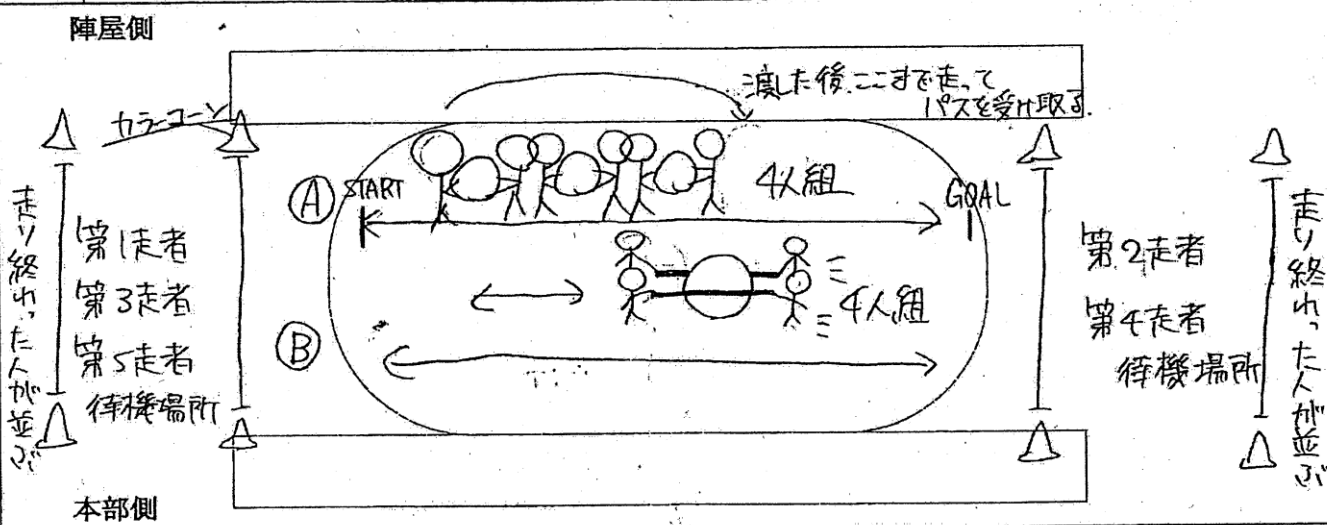


実践を交えながら競技の説明をしている様子

⑤大蔵中の実践から学ぶ⑤

主体的に取り組む協同的な活動を通じた「絆づくり」の推進

順番	競技名	参加者	担当
8	できないをやらなくすか	全員	鬼海 先生



《得点》

1位	= 50点
2位	= 40点
3位	= 30点
4位	= 10点

《ルール》 ※ ボールを落とした場合1人取りに行き、再スタートする
赤・白と黄色の4チーム。各チーム4人ずつ。(1人1回～2回走る)
第1走・第3走・第5走のみ4チームは①の方式で進む。
→ ボールは投げず手で渡し、渡す時、渡される方は必ず止まる。
各人各人4人でパスしていく。(渡した後はすぐで走るをくり返す)
第2走・第4走は②の方式で進む。→ 棒ではしゃいで進む。

《準備するもの・依頼すること》

大玉 4つ(青雲館側)、棒 ~~8~~ セット(小学校側)
カラーコーン 8個、ゼッケン(赤・黄・青・白) 軍手。

①競技上、危険が予想される場面。危険となる行動。

解決するために...

- ボールを渡した後の物動中の衝突
- ボールの渡しミスがあった時
- 移動の際は必ず校舎側の方を
通って移動する
- ボールを渡す人の1人前あたりの4チーム内の人しか取りに行きメンバーにパスを渡す

②競技上、選手や役員が困りそうな場面。

解決するために...

- 4チームの入れ替え
- 受け渡しの時
- 1走目から走ってきたり、2走目はボールを受け取る人のみ前の方に出て、その他の3人はカラーコーン側も後ろで待つ。ボールを1人か受け取り、3人は前に出てボールをはきみスタートする

◎みんなが共通して守ること。

- 大玉は投げない、けさない、遠くに跳ばない、人に当てない。拍手などで応援。
- 窓を壊したため走る4チーム以外に、離れて2スリをつけて応援する